総合特別区域の進捗に係る評価［観光立国・地域活性化（農林水産業）分野］　平成30年度

千年の草原の継承と創造的活用総合特区

［指定：平成25年９月、認定：平成26年11月］

Ⅰ 目標に向けた取組の進捗に関する評価

ｉ）＋ⅱ）の平均値　(4.5+3.8)/2=4.2　**4.2**

ｉ）取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度（当年度実績）

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原管理面積、②野焼き再開牧野数	148%	5
2	牛馬の放牧頭数≪定性的評価≫	－	－
3	①観光入り込み総数、②阿蘇地域の宿泊客数≪定性的評価≫	－	－
4	あか牛肉料理認定店数	95%	4
5	草原体験利用者数≪定性的評価≫	－	－

評価指標毎の進捗の評価の平均値　（5×１＋4×１＋3×０＋2×０＋1×０）／２＝4.5　**4.5**

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
（例）評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa：5･20%、b：4･10%、c：3･70%の場合、5×0.2＋4×0.1＋3×0.7＝3.5で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ⅱ）取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値　**3.8**

Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

ｉ）、ⅱ）、ⅲ）の平均値　(2.8+3.3+3.8)/3=3.3　**3.3**

ｉ）規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値　**2.8**

ⅱ）財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値　**3.3**

ⅲ）地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値　**3.8**

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

（専門家所見（主なもの））

3.5

・観光客の回復など、地域に人々が戻ってきていることから今後の活動には期待が持てる。また、草原管理など自然保護の活動については順調であることがうかがえる。

・「野焼き再開牧野（組合）数」については、高齢化が進む中で大変な取組だと思われるが、にもかかわらず1組合でも増加しているのは望ましい。牧野組合が野焼き実施に至らずというのは地震の影響だけでなく後継者不足等の要因もあるとのことだが、外部人材の確保等の工夫の余地はないか、検討いただきたい。

・あか牛肉の評価が高まった一方で商品確保に課題が出てきたとのこと。これは放牧頭数の伸び悩みと同様、有畜農家の減少が背景にあろう。畜産業への新規参入には困難もあろうかと思うが、新規就農者確保に向けてさらに取り組んで頂きたい。

・エコツーリズムを実現するために突破しなければならない規制が今後、出てくるのではないかとみている。

・国の支援措置に係る財政・税制・金融支援、地域独自の取組は一定程度みることができる。

専門家による評価（専門家の総合的な所見）の平均値 3.5

総合評価

Ⅰ、Ⅱ及びⅢを1：1：2の比率で計算 (4.2+3.3+3.5×2)／4=3.6

3.6

（注）評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。
・評価は5～1（評点）で行う。
・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
・進捗度以外の評価項目における評点は、5：著しく優れている、4：十分に優れている、3：適当である、2：適当であると認めるには不十分である、1：適当であると認められないとする。